

貝印、「知財・無形資産ガバナンス表彰」特別賞を受賞 ～無形資産価値を経営に組み込む取り組みが評価～

グローバル刃物メーカーの貝印株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長兼COO:遠藤 浩彰)は、一般社団法人知財・無形資産ガバナンス推進協会(IPIAGPA)が主催する「知財・無形資産ガバナンス表彰(2025年度)」において、特別賞を受賞いたしました。



■知財・無形資産ガバナンス表彰について

「知財・無形資産ガバナンス表彰」は、一般社団法人知財・無形資産ガバナンス推進協会(IPIAGPA)が2024年に創設した表彰制度です。

知財・無形資産ガバナンスを実践し企業価値向上を図り、日本企業のロールモデルとなる活動を推進している企業を表彰することで、日本企業全体の知財・無形資産の戦略的活用に関する意欲を高め、知財・無形資産の投資・活用を促進することを目的としています。

2025年度は、自薦・他薦を含む応募企業の中から厳正な審査を経て、6社が表彰企業として選定されました。

【協会公式サイト】<https://ipiagpa.net/>

貝印が「知財・無形資産ガバナンス表彰」特別賞を受賞

1908年創業の貝印は、刃物づくりで培ってきた技術力と品質へのこだわりを礎に、商品そのものの機能価値のみならず、デザインや、技術力、ブランド体験等の無形資産の創出と活用を推進してまいりました。

このように、独自ブランド構築や表現を通じて自社の強みを無形資産価値として高める取り組みを長年にわたり継続してきた点が高く評価され、特別賞を受賞いたしました。

また、「知財・無形資産」という言葉が広く普及する以前より、経営層がその重要性を深く認識し、経営に組み込み、企業価値向上に結び付けてきた実績も評価のポイントとなりました。

表彰式について

一般社団法人知財・無形資産ガバナンス推進協会(IPIAGPA)が主催し、2026年3月12日(木)に開催された表彰式において、代表取締役社長兼COOの遠藤浩彰が登壇しました。

遠藤はスピーチの中で、「ファミリーカンパニーとして、企業の持続性をテーマに100年先の未来を見据えながら経営をしております。資本力の大きな競合他社とグローバルで対峙していく上で、知恵、知財の力を活用していかなければならないことを歴代の経営者が重要視してまいりました。経営方針の一つである『DUPS³(Design, Uniqueness Patent, Safety & Story & Sustainability)』は、商品企画や開発に関わる社員のみならず、企業理念の中に組み込む形で、全社員が体現すべきものとして活用を進めています。」

と述べ、創業以来大切にしてきた知財・無形資産を、これからも経営の中核に据え、持続的な企業価値向上に取り組んでいく姿勢を表明いたしました。

また、「お客様に選んでいただくためには、差別化されたものを価値としてお届けすることが大事であり、知財・無形資産をいかに活用していくかを常に心がけております。こういったものへの投資は、憎むべきコストではなく、我々が投資しなければならないものであると考えています。今回の受賞を糧に、引き続き知財・無形資産の活用を企業経営の中でも推進してまいります。」

と語り、今後も社会やお客様の期待に応え続ける企業であり続ける決意を示しました。

授賞式後はパネルディスカッションが行われ、取締役／上席執行役員 知財・法務本部長 CIPO兼CLOの地曳が参加し、「今回の受賞につながったと考える知財・無形資産活用への取り組み」や、「知財戦略を社内を導入する際の苦労と課題」について登壇者とディスカッションを行いました。

KAIグループは、今後も「切れ味とやさしさ」というミッションのもと、知財・無形資産を磨き続け、世界中の人々の営みに誠実に寄り添いながら、持続的な企業価値向上を目指してまいります。



貝印株式会社

1908年、刃物の町として有名な岐阜県関市に創業。カミソリやツメキリなどの身だしなみを整えるツールやビューティーツール、包丁をはじめとする調理器具や製菓用品、医療用刃物など、生活に密着した刃物を中心に1万アイテムにもおよぶ商品を展開。商品の企画、開発から生産、販売、物流までの一連を行っているグローバル刃物メーカー。

本社：東京都千代田区岩本町3-9-5
代表取締役社長兼COO 遠藤 浩彰
<https://www.kai-group.com>

本件に関する読者の皆様からのお問い合わせ先

貝印株式会社 お客様相談室
〒101-8586 東京都千代田区岩本町3-9-5
TEL:0120-016-410 (フリーアクセス・ひかりワイド)
<https://www.kai-group.com>